

「自分の将来に夢や目標を持ち、自己実現に向けて挑戦し続ける生徒の育成」

好きです!山中

学校便り第4号 平成29年6月15日

子どもたちの命にありがとう！ ～山鹿中「命の日」講演会～

6月8日は、山鹿中学校にとっては特別な日です。9年前に、当時3年生の女子生徒が交通事故で尊い命を亡くしました。その出来事以来、日々の生活はもちろんのこと、この日を「命の日」と定め、大切な命や生き方について深く学び考える機会としています。本年度は、「いのちをつなぐ会」代表の高濱伸一さんに「子どもたちの命にありがとう」という演題でお話をしていただきました。高濱さんは、大学生の息子さんを交通事故で亡くされた時の思いや、ご自身が食道がんになられたこと、生きることを見失いそうになったことなど涙をこらえながら話されました。「必要のない命は一つもない」「どんなことがあっても生きて、生きて、生き抜いてほしい」「いつものつまらなそうな毎日が、実はとても幸せだった」「悲しい心は誰でも経験する。その心は、人の心でしか癒えることはできない。だからこそひとりぼっちをつくらないでほしい」など心に響く貴重なお話をいただきました。子どもたちも、多くのことを学び感じてくれました。感想文の一部紹介します。

- 自分の家族と照らし合わせて聞くと思いが強くなって涙が出てきました。自分が死んだら家族を悲しませてしまいます。改めて自分の命を大切にしなければならないと思いました。
- 自分は意味のない人間とは思わず、どんなことがあっても絶対に投げださないようにしたい。
- 「夢はあきらめてもいいけど、捨ててはいけない」という言葉が心に残りました。命があれば夢が叶う可能性があります。自分の夢を実現するためにも命を大切にします。
- 親にとって子どもは一番大切な存在であり、いるだけで幸せな存在であることがわかりました。
- この頃親に反抗的で何か聞かれたら「うん」としか言っていません。でも親は私のために言ってくれているのしっかり聞いてみようと思いました。
- 普段から家族、友だちがいる幸せを噛みしめながら自分の命を大切に、これからの生活も安全に気をつけて、一つ一つの幸せを感じながら生きていきたいです。



学校のホームページにも学校生活の様子や行事予定等を掲載しています。